

YMCA News

8.9



「YMCAのリーダーへ」

SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

16 平和と公正
すべての人に

手紙ありがとう!今も何回も読んでるよ。新型コロナウイルスで、今、アドベンチャーなどに行けなくて寂しいけど、また、アドベンチャーやサンデーに行ける日を、毎日学校でも楽しみにしているよ。

※1リーダーチャンネルもおもしろいし、目の前にいるように私は思えるから、リーダーチャンネルを見て、我慢、我慢。けど、会えたら、すごく嬉しいよね!その日を楽しみに!手紙届いたとき、すごく嬉しかった。大船渡でも、毎日、ニコニコして、友達と仲良く遊んでいるよ!たまたま、盛岡やYMCAを見たかったり、行きたかったりするけどね。でも、大丈夫、大丈夫。盛岡から、大船渡に行く前に、いろいろプレゼントもらったもん。それに、※2マックスが今、私の学校にいるしね。マックスは4-2の子たちからすごく人気だよ。先生頑張っているよ。絵が上手だったりして、黒板に絵書いていたよ。その絵を見て4-2の子や3-1も「わあー

すごい。」って言っていた。私も「誕生日にももらった色紙の絵みたい!」って思ったよ。※2トラックはどここの小学校にいるのかな?でもマックスはもう、マックスじゃなくて、先生だから「マックス」って呼べないんだ。

でもさ、近くにいただけで私はいいんだ!新型コロナウイルスが、おさまったらまた、お知らせの手紙送ってください!お願いします!また会える日を。

※1 新型コロナウイルスの感染拡大に伴い自宅待機が続く中、盛岡YMCAの学生リーダーが立ち上げたサイト。

※2 マックスとトラックは今年卒業した盛岡YMCAの元リーダーです。現在はそれぞれ大船渡と久慈で小学校の先生として活躍しています。

ちきゅうと、あそぼう。野外活動クラブ会員
佐々木乃愛

盛岡YMCAの使命

私たち、盛岡YMCAは、イエス・キリストによって示された生き方に学びつつ、豊かな自然と歴史的伝統に満ちた岩手の地で、こども、家族、地域とともに公正で平和な世界の実現を目指します。

1. こどもたちの個性を大切に、それぞれの夢や希望、生きる力を育みます。
2. 家族の絆といのちの大切さを深め合います。
3. 共に生きるために、異なった文化、多様な価値観と出会う場を提供します。

6月「われら!まちなか探検隊!!」

ちきゅうと、あそぼう6月活動では、街中探検を行いました。当日、子どもたちにとっては、数か月ぶりの野外活動ということで、集合場所に集まった際、不安や緊張している様子をのぞかせていましたが、リーダーに会い、話したり遊んだりしているうちに、今日とはどんな活動をするんだろうと、期待に満ちた表情に変わっていきました。

午前中は、グループごとに自分たちが発見した面白いものや、珍しいものをピンゴカードに書き、自分たちだけのピンゴカードを作るプログラムを行いました。それぞれのグループ別々のルートを通り、公園内に置いてある銅像や元小学校の跡地、とあるビルの名前などなど、個性豊かなピンゴカードを作っていました。

その後、盛岡城跡公園でお昼ご飯を食べ、フリータイムの時間になり、中津川付近の川辺まで遊びに行くグループや、芝生広場でリーダーと一緒に、ダイナミックに体を使って遊ぶグループなどなど、午前中歩いた疲れを、まったく見せず、イキイキと遊んでいました。

午後のプログラムでは、午前中に作ったピンゴカードをグループごと

に交換し、帰りも探検しながらピンゴカードに書いてある物を見つけていくプログラムを行いました。午前と違い、書いてあるものを探すため、午前中の街中探検の際に、どこになががあったかグループ内で話し合ったり、道行く人にその場所について、尋ねてみたりと色々なグループが真剣にプログラムを楽しんでいるようでした。そんな中、ピンゴカードには、目もくれず、20分近くの小川で遊ぶ、道端の石ころを「これはUFOのかけらだ!」と言いピンゴカードを埋めているグループもありました。

その後も、そのグループは、グループ内メンバーで話し合い、ピンゴカードに落書きをして、リーダーが気づくというイタズラをしたり、ピンゴカードとは、まったく関係ないような草の生い茂っている場所を掻き分け進んだり、自分たちなりの探検を楽しんでいました。真剣に楽しんだグループも自由に探検したグループも集合場所に着くころには、ヘトヘトに疲れている様子でしたが、どの子もリーダーとの探検を満喫し充足感に満ち溢れた表情をしていました。

野外活動担当 中村渉



7月「夏の暑さを吹き飛ばせ!!川遊びへ行こう♪」

みなさん、こんにちは!夏バテをして少しは痩せたいシュリンプです!私からは、7月26日に行われた、ちきゅうと遊ぶ「暑さを吹き飛ばせ!川遊びへ行こう!」の報告をさせていただきます。

今回のプログラムには、子ども33人、リーダー12人が参加しました。会場は、岩手銀行赤レンガ館横の中津川です。

まず、西口バスターミナルに集合しました。集合した際には、川遊びが楽しみで、すでに自前の水鉄砲で撃ち合いごっこをしている子ども達もいました。中津川までの移動の道中では、早く水で遊びたかったのか、中津川ではない小さい川が流れてるところで、遊んでいるグループもありました。中津川に着くと、大急ぎで着替え、遊び道具を持ち、「まだ入っちゃダメ!?いい!?!」とウズウズしている子ども達の様子が見られました。体操を済ませ、いざ川に入ると、最初は水の冷たさに驚いていましたが、水を掛け合ったりしているうちに、冷たさを忘れ全力で遊んでいました。

リーダーを的にしたり、セレブのように浮き輪にのり、リーダーに引

張って貰ったりと、みんなが楽しく過ごしていました。お昼ご飯の時間になると、グループで創作昔話や、クイズをして、楽しんでいました。

午後の川遊びが始まると、やはり最初は「冷た!」といい、入るのを躊躇していましたが、水を掛け合い遊び始めると、お昼ご飯で乾いた身体もすぐにびしょ濡れになっていました。全力で楽しみ遊んでいるうちに、1時間あった川遊びの時間もあっという間に終わってしまいました。

帰り支度をちゃんと済ませ、遊び疲れた子どもたちも、最後まで自力で歩き西口バスターミナルまで移動しました。解散した後には、「次の活動も行こう!」と楽しみにしている子どももいました。

コロナ禍にある現在の状況でも、今回の活動は子ども1人1人が全力で楽しみ、輝いていました。このような活動が出来たのも、みなさんのご支援のおかげです。ほんとうに、ありがとうございました!

宮澤秋彦(シュリンプリーダー)



～本町ぷらいむ～

暑い日が続いた今年の夏でしたが、子ども達は元気いっぱい。そして、本町センターは今年も様々な行事を行いました。

7月29日と8月7日は、仁王地区活動センターで体育館遊びを行いました。バスケットボールやサッカー、鬼ごっこやリレーなど、普段できない遊びをのびのびと思いきり楽しみました。7月30日は、避難訓練を行いました。水害が想定されときの訓練です。2列に並んで、仁王小学校の校庭に行きました。全員がリーダーの話を聞いており、まじめに取り組んでいました。7月31日は、6月と7月生まれの誕生会を行いました。みんなで協力してフルーツポンチ作りです。4つのグループに分かれて調理開始です。グループで楽しみながら協力し、美味しそうなフルーツポンチができました。

できあがった後は、みんなでハッピーバースデー歌を歌い、フルーツポンチを食べ誕生日を迎えた子どもたちのお祝いをしました。

8月4日は滝沢総合公園に水遊びに行きました。普段は乗らないバスに乗り、子ども達はうきうきしています。公園に着いたら大きな池で水遊びです。水鉄砲を掛け合い、思い切り濡れて遊びます。ご飯を食べた後はアスレチック遊びです。ターザンロープやジャングルジムで、遊びました。みんなとても良い笑顔で一日を過ごしました。

8月12日はスイカ割りをしました。2個のスイカをそれぞれ2つのグループに分けて行いました。「左、右!もうちょっと左!まっすぐ!」目隠しをした友達を応援しながらスイカを割ろうとします。チームワークを発揮して、無事にスイカを割ることができました。

みんなで協力して割ったスイカはとても美味しかったです。8月18日はかき氷を作って食べました。主に高学年の子たちがかき氷を作ってくれました。去年も手伝ってくれて、手際よく作ってくれます。たくさん食べて心も体も涼しくなりました。今年は行事を通してみんなで協力しつつ、のびのびと過ごした夏休みとなりました。

本町センター副センター長 中村圭一



～前湯ぷらいむ～

「お誕生日おめでとう!!」ぷらいむ・たいむ前湯校の夏休みは7月生まれのおともだちのお誕生会からスタートしました。たくさんの学童行事の中からふたつの行事をご紹介します。

7月29日(水)「7月お誕生会」の内容は、スタンプとおやつパーティー。グループ毎に午前中からスタンプの内容や役割を子どもたちだけで決めたり、午後のショッピングセンターでのお買い物、その後のグループ毎の出し物の発表など、グループ活動を行いました。クイズを出すグループ、劇の途中でクイズが始まる新しいタイプの演劇トランプゲームの実況中継など面白い出し物で盛り上がりしました。普段は一緒に遊ばないメンバーと、一日中グループとして生活を共にし、時には笑い、時には言い争いをし、リーダー役の子は悩み、時にはみんなで解決の糸口を探すなど、自分たちで作り上げることをきっかけに、チャレンジすることを覚えた誕生会となりました。いい形で夏休みがスタートできたためなのか、その後の学童内の遊びの中では、あまり見ることのなかった組み合わせで遊んでいた、いつものグループに新メンバーが加わったりと、新たな面が生まれました。8月4日(火)は恒例となった「第4回ぷらいむ・たいむ前湯校カラム大会」の開催です。毎回いろんなドラマが生まれ、感動の涙、悔し涙があらここちで見られる、前湯校のイベントの中でもみんなの本気がぶつかり合い、感情むき出しの行事となっています。

今回は特にドラマが多く生まれました。優勝候補同士の好カードが1回戦に登場したり、前回優勝者や毎回優勝候補に挙げられている子が早々に敗退したり、新たなダークホースが生まれたり、司会をしていた私(たもり)は「えーっ!?!」としか言葉が出ない程でした。そんな中でも、参加する子を見ていて、これまでテーマにしていた「相手を気遣う心や相手を敬う心」が、実を結んでいくことを実感しました。

コロナ禍でストレスの溜まりやすい長い夏休みとなってしまいましたが、学童にすることで楽しめること、学童にいたからこそ成長できたことなどを、子どもたちに実感してもらっていたら、忘れられない楽しい夏休みだったと言う事ができます。これからまたたくさんの成長を感じていこうと職員一同考えています。

前湯センター長 東森 聡



～向中野ぷらいむ～

向中野校は、とても長い35日間の夏休みとなりました。普段の学童の時間を過ごすものもありますが、せっかくなのでスライムづくりや、アイスづくり、ビニールプール、映画鑑賞会など色々な小イベントを行いました。この小イベントは、7月中に子どもたちにやってみたいことをアンケートにして募集し、実現可能なものを主に選んで実施しました。

猛暑日が続く中、特に人気だったのが、学童の外にビニールプールを出して入る活動でした。他の映画鑑賞などのイベントがある時も、「プールは、今日出さない!?!」とワクワクしている声が、子どもたちの中から多く出てきました。このビニールプールは、2年前学童を卒業した子と保護者の方から寄付して頂いたもので、みんなで大切に使うという話をしていますが、プールに入ると、開放感から元気にバシャバシャとプロレスのようなことをして、はしゃぎながら入りたい子たちと、温泉のようにつかったりしながらゆっくり入りたい子たちがおり、時々、言い争いになることがあります。

プールが壊れないよう注意しつつ、どうすれば今いるみんなで楽しめるか、子どもたちと相談したところ、はしゃぐ時間とゆっくりする時間を5分ずつにして分ける!と言うところで話が落ち着きました。その後は子ども同士で「あと何分!」など声をかけ合いながら、自分たちで決めたルールを守って遊んでいました。日常の中の些細なことですが、ビニールプールを通して、普段関わらない子同士がゆずりあったり、声をかけ合ったりするなど、新しい関わりの様子も見られました。また、一緒に場を共有し楽しむ良い機会になったのではないかなと思います。

夏休みに入る前は、とても長いと感じておりましたが、過ぎ去ってしまった、35日間はあっという間でした。猛暑の中でも、向中野校の子どもたちは、元気いっぱい過ごしました。熱中症になることもなく、無事に乗り切ることができて一安心です。

向中野センター長 尾形裕一郎



～盛南ぷらいむ～

この夏、ぷらいむ・たいむ盛南校では、一段と夏の暑さが厳しい中、子どもたちは、いつもよりパワフルに夏休みを過ごしていました。特に、滝沢総合公園での水遊びでは、低学年の子どもたちは小川の周りで、カエルや虫を夢中になって探し、高学年はロックガーデンで服が濡れるのも気にせずに、滝に打たれたり、水に飛び込んだりして、どの子も一度きりの夏を目いっぱい満喫するかのよう、イキイとした表情で遊んでいました。

その他にも、この夏盛南校では、かき氷パーティーや一日映画上映会など、行事が目白押しでした。私の中では、8月誕生日会で屋台ごっこをした際に、それぞれのブースで子どもたちが話しあいながら、何をするか話し準備している姿が印象に残っています。1年生の子たちが中心になって『手を伸ばして撃たない』『学年ごとに距離が離れる』といったルールを作った射的屋さん、ボールをすくうボイを作るために、午前中のすべての時間を使って、色んな素材で試作していた高学年中心のボールすくい屋さん、お客さんがどうしたら、怖がるか考えBGMを流そうとするも、おぼけ役が怖がってしまい、試行錯誤を繰り返した、低学年～高学年の子たちがバランスよく入っていたお化け屋敷屋さん、それぞれのグループが別々のことをしつつも、お客さんを喜ばせるために、準備をしていました。屋台が開いた後も、それぞれのブースで自分たちが楽しみたい、お客さんを喜ばせるために頑張っていました。

行事のほかにも、普段の学童の時よりも、低学年の子たちに気にかけてあげている高学年や、その高学年を慕って付いていっている低学年の子たちの様子を多く見られた夏休みだったと思います。子どもたちにとって、この夏、コロナの情勢の中、外出の制限やマスクの着用等、なにかしら制限があった夏だったと思います。

しかし、学童では、制限はしつつも、そんな制限を忘れてしまうくらい楽しい夏休みになったと私は考えています。今後も、コロナに負けず、学童の子たちが楽しく、安心して来れる学童でありたいと思います。

盛南センター長 中村 渉



「一歩」が出ない!!

以前も紹介したが、「ポジティブ」の語源は、ラテン語の「ponere」にあるらしく、もともと意味は、「とりあえず置いてみる」「一歩踏み出してみる」というニュアンスがあるそうだ。

今から30年ほど前、仙台のある百貨店で出来事である。折りたたみ式のベビーカーに赤ちゃんを乗せて、2才くらいの女の子の手をひいたお母さんがエスカレーターに乗ろうとしていた。お母さんはベビーカーを両手で抱えて乗るから女の子には後からついてくるように支持したみたいだった。「大丈夫かな?」と思っていると案の定、女の子はエスカレーターの中で転んで泣き出してしまった。僕は急いで駆け上がってその子を抱き上げてお母さんに引き渡した。とても感謝された。しかし僕の心には恥ずかしさと大きな後悔が残った。なんでこうなる前に「お手伝いしましょうか?」と声をかけることが出来なかったのだろう。

この出来事の半年後、僕はドイツのミュンヘンにいた。YMCAの海外研修の引率だ。その日は終日フリー行動で数名の学生と市内の美術館に向かっていた。朝の通勤ラッシュ時はミュンヘンも日本と同様相当混雑する。電車から降りた人々は急ぎ足で一斉に改札口に通じるエスカレーターに向かっていた。ここのエスカレーターは普通日本にあるものに比べて3倍も4倍も長く、びっくりするような高さだ。人の流れに沿って進んでいくと、大きな4輪のベビーカーと幼い子どもを二人連れのお母さんがエスカレーターに乗ろうとしていた。「同じ状況じゃん!! どうしよう?」と躊躇していると、どこからか4名のビジネスマンが現れて、そのうち二人が協力してベビーカーを持ち上げ、残りの二人は、小さな子どもたちの手を優しく引いて歩き始めた。お母さんは悠々と後からついていく。終点に到着するとビジネスマンはベビーカーと子どもたちをお母さんに返し、風のように、雑踏の中に消えていった。そして、お母さんも4人のビジネスマンを見送ることなく、何もなかったかのように子どもたちと一緒に歩き始めた。

この一歩の違いはいったい何なのだろうか? それから30年、僕は未だにその違いを埋めることが出来ていない。

「人にしてもらいたいと思うことはなんでもあなた方も人にしなさい。」
(新約聖書 マタイによる福音書 7章12節)

盛岡YMCA 総主事 濱塚有史

※互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと

● 寄附金

花田 瞳、山崎詩織、光永尚生、瀬川利恵、川坂保広、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、高瀬稔彦、今野健男、今野聖子、南原良哉、佐藤翔、高橋友恵

● 維持会員

廣川健太郎、廣川厚子、廣川はるな、浅沼誠久、花田瞳、山崎詩織、林間つきみ、野教会、照井夏輝、光永尚生、釜ヶ澤亮、斉藤優太、魚住恵、acomino、川坂保広、ガイアリンク株、小林明彦、人見晃弘、尾張幸久、魚住英昭、清水治彦、若井淳、尾形裕一郎、高瀬稔彦、森山日菜乃、森山幹大、大塚英彦、押切梓、名古屋恒彦、名古屋理恵、今野健男、今野聖子、南原良哉、伊藤眞一郎、伊藤みどり、石川葉、浅沼慧、浅沼美希、佐藤翔、小川嘉文、小川明佑、阿部深雪、高橋友恵、濱塚有史、濱塚真美、武田理恵子、菅原歩、藤原依音、植田一茂、武田悠、向平悟、向平ちひろ、滝川佐渡子、戸貞文、田村治之、大久保里美

(2020年8月28日現在) 敬称略

『ぼんやきゅう』

文: 指田 和
絵: 長谷川 義史

皆さんはお盆休みをどのように過ごすでしょうか。ご先祖様のお墓参りをしたり、親戚が一堂に会して話を花を咲かせたり、盆踊りをしたりなどして過ごすという人もいるだろう。

岩手県釜石市鶴住居地区では、毎年お盆休みに野球大会が開かれている。

戦後に始まり60年以上ものあいだ続いてきた大会で、お盆に開かれることから通称「ぼんやきゅう」と呼ばれ人々に親しまれてきたが、2011年の地震、津波の被害を受けて、ぼんやきゅうは7年ほど開催されていなかった。物語はその頃の様子から始まる。

震災から7年たった夏のこと、「ことしは、ぼんやきゅうやるかもしれない。」と、ひろみの父親がつぶやいた。ずっと前から使われてきたぼんやきゅうの優勝旗が奇跡的に無事に発見されたことが分かったのである。

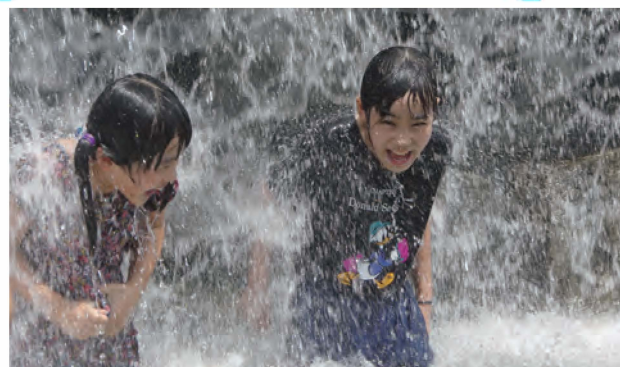
ひろみの父親をはじめ、地域の皆はぼんやきゅうが再開できることに大喜び。みんなやる気いっばいに団結して当日をむかえた。

大会当日は小雨が降るなか、震災からの復興を誓う宣誓と犠牲者の黙祷に始まった。どのチームも一生懸命にプレーし、球場は笑いと感動に包まれながら進んでいった。ひろみのチームは優勝こそできなかったものの、みんな笑顔で大会を終えた。この絵本を通して、災害や戦争の復興・人々の心の支えとして地域で続いてきた文化というのが果たす役割の大きさを感ずることができた。

また開催される時期がお盆ということもあり、亡くなった人達に生き残った人々が元気に復興し頑張っている姿を見せることができるというお盆ならではの意味も含まれてくるのだろう。

岩手大学2年生 星野太志
(リーダー名 ゲン)

表紙の写真から



表紙の写真は、夏休み中、ぶらいむ・たいむ盛南校の子どもたちと滝沢総合公園に遊びに行った時の写真です。この日も子どもたちは、暑さに負けずイキイキとした表情で遊んでいました。

最新情報はこちらでチェックできます! 「盛岡YMCA」で検索ください。

ホームページ : <https://www.moriokaymca.org/>

facebook : <https://ja-jp.facebook.com/moriokaymca/>